



第2委員会視察研修報告書

木村建一

それぞれの自治体の様々な事業内容を聞いたが、その事業を絞りこみ伊豆市と比較しながら学んだことを報告書とする。

子育て支援日本一の取り組み《福井県勝山市》（視察日7月15日）

〔人口24,640 面積253.88km²〕

平成17年から平成26年まで次世代育成行動計画に沿い“子育て環境日本一”を目指している。

1. 市民ニーズ把握の取り組みの内容

○ 子ども子育て等に関するアンケートを実施。

5年ごとに実施しているが、市単独事業に対する市民の満足度を知るために行っている。

アンケートには、子育て支援の当事者である小学5年生、中学生2年生、高校2年生も行っている。

○年1回、公立、私立それぞれの保育園保護者連合会と市長と語る会。

支援を受けている児童生徒、保護者の声を聞くという当局の姿勢は評価すべきです。

2. 育児支援制度

○世帯の第3子以降、3歳以上の保育料半額。

県の施策として、第3子以降、3歳未満の保育料無料。

○第3子以降を「かつやまっ子」として、育成奨励金を交付。

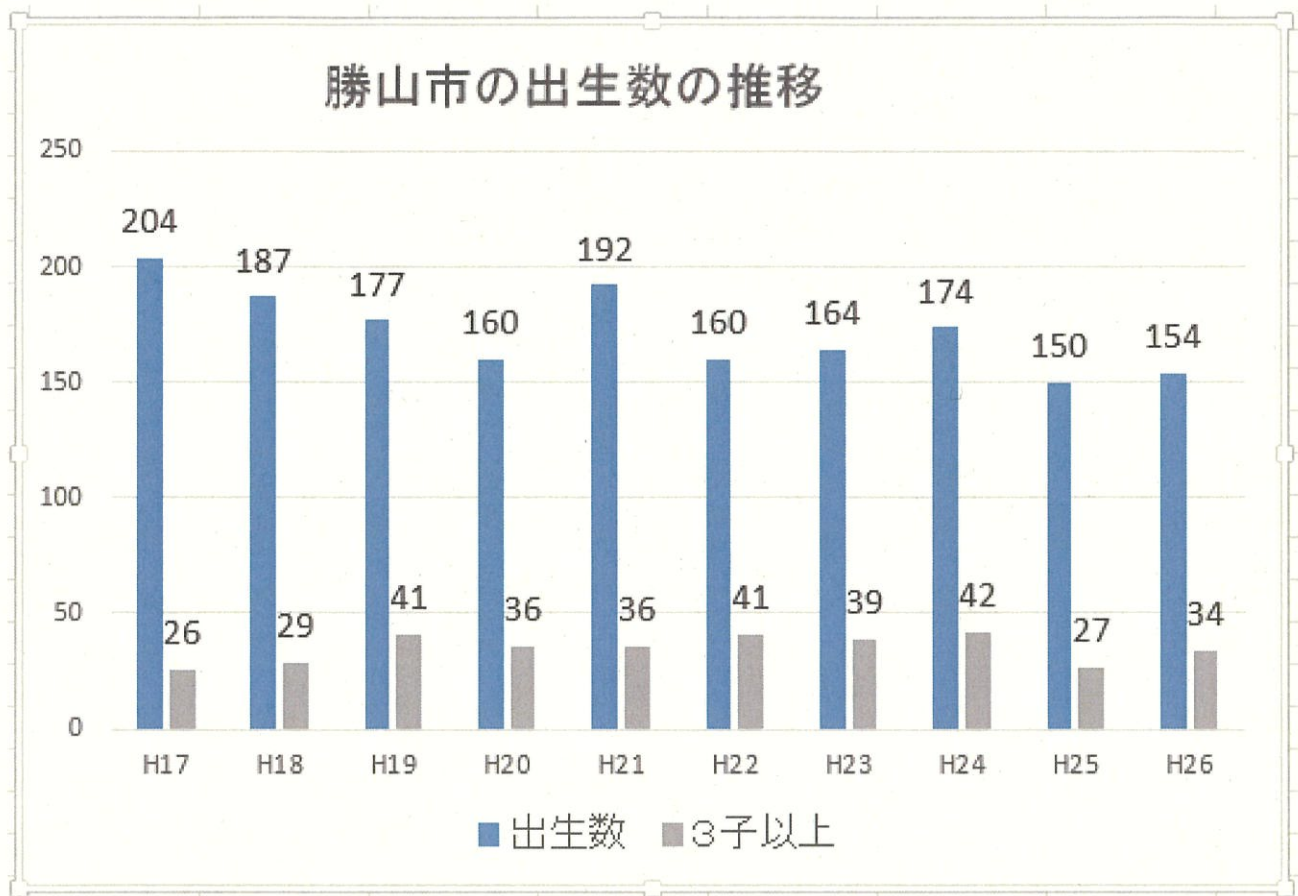
第3子→30万円 第4子→40万円 第5子以降→50万円

※同一世帯の18歳未満が対象

○児童センター

公立小学校9校に対して、児童センター10か所。児童センターでは、①放課後児童クラブ ②放課後子ども教室 ③児童センター事業の3事業。子どもは、すべて無料。夏休みに市外から孫が、当市に来た時でもセンターを利用できる。

利用を希望するすべての児童を受け入れている。学校の早期下校、振替休日に合わせた開館時間になっている。留守家庭の保護者にとって喜ばしい施設、制度だと思う。



勝山市の小学校の児童数 1,100 名。(伊豆市は、1300 人)

「子育てしやすい街とはどんなまちなのか」勝山市から学ぶ。

●出生数をどう見るのか。平成 17 年から見ると増加傾向ではないが、右肩下がりよりも緩やかにしていると判断した。市職員も話していたが、第 3 子以降に対する支援策の効果は出ている。ただ、1 子、2 子世帯の支援策が現状でいいのかどうか検討しているという。

●資料をそのまま添付したが、『母親の支援対策について』は、伊豆市の現状を見ながら参考にし、政策化する必要があると思う。

母親の支援対策について

・専業主婦が求職活動をする期間の支援策

①保育園入園関係

保育を必要とする事由		期間
求職活動	求職活動又は起業準備を継続的にしていること	3カ月程度
※以下参考		
育児	満1歳までの子どもの育児のため、兄姉が保育を利用する場合	育児の対象児が満1歳になる月の月末まで
育児休業	育児休業を取得する場合で、既に保育を利用している子どもについて継続して保育が必要と認められる場合	勤務先が認める育児休業期間

②上記以外

- ・保育園での一時預かり事業 リフレックスママ
- ・子育て生活応援隊事業

17

母親の支援対策について

・核家族化における悩みをもつ母親の現状と支援策

○勝山市の現状

3世代同居や実家の近くで生活する核家族が多く、近くに協力者がいない核家族からの相談件数は少ない。(子育て支援センターで年に数件程度)

○核家族における母親の主な悩み

- ・母親と子どもだけで過ごす時間が長く、育児と家事に追われ協力者も周囲にいない。
- ・夫婦(主に夫)の収入のみの生活では、経済的負担が大きく、将来不安がある。

○支援策

- ・経済的負担の軽減 → 医療費助成、保育料軽減 など
- ・身心的負担の軽減 → 保育園での一時預かり、子育て生活応援隊等のサービスの案内

18

中学校統合の理由《富山県射水市》（視察日7月16日）

〔人口 94,404 面積 109.43 km²〕

きっかけは

●PTA 役員から、統合を視野に入れた教育環境を望む声！。

平成20年 PTA 役員等で構成する「奈古中学校の教育を考える会」が発足。

平成21年、同会から教育委員会に「他校との統合も視野に入れた教育環境の整備についての調査研究など」の要望書が提出される。



結果

2つの中学校が統合、新校舎を建設する

射水市も伊豆市も、
発想は同じ

●何を換えようとしたのか

- ①切磋琢磨できる教育環境＝子どもたちにとって望ましい教育環境
- ②学級数の維持
- ③専門教科の教員配置
- ④部活動数の確保



「切磋琢磨」とは、もともとは、学問に努めたり（＝切磋）、自修（＝琢磨）して、人格の向上に努力するたとえ。（ここでは、「お互いに競争しないと成長しないという発想はない」）

「学校の適正規模」の話がよく出され、「人数によって教育効果に差があるように言われる」ことが多い。「教育効果等の観点から望ましい学校規模」についての国の基準はあると思われるようなうな使い方をするが…「どんな教育効果があるのか」教えてほしい。

よく言われる「学校の適正規模」についての国の基準（1・2～18学級）というのは、単に国が補助金を出す際の基準と受け止めたが。

学校再編・統合の視点・重視すべきことは—

「教育」とは「一人一人が、生き抜く力をつけること」ではないでしょうか。

生き抜く力とは、他人を追い落とす力ということではなく、人と人とが、いっしょに生きていける力こそが生き抜く力！

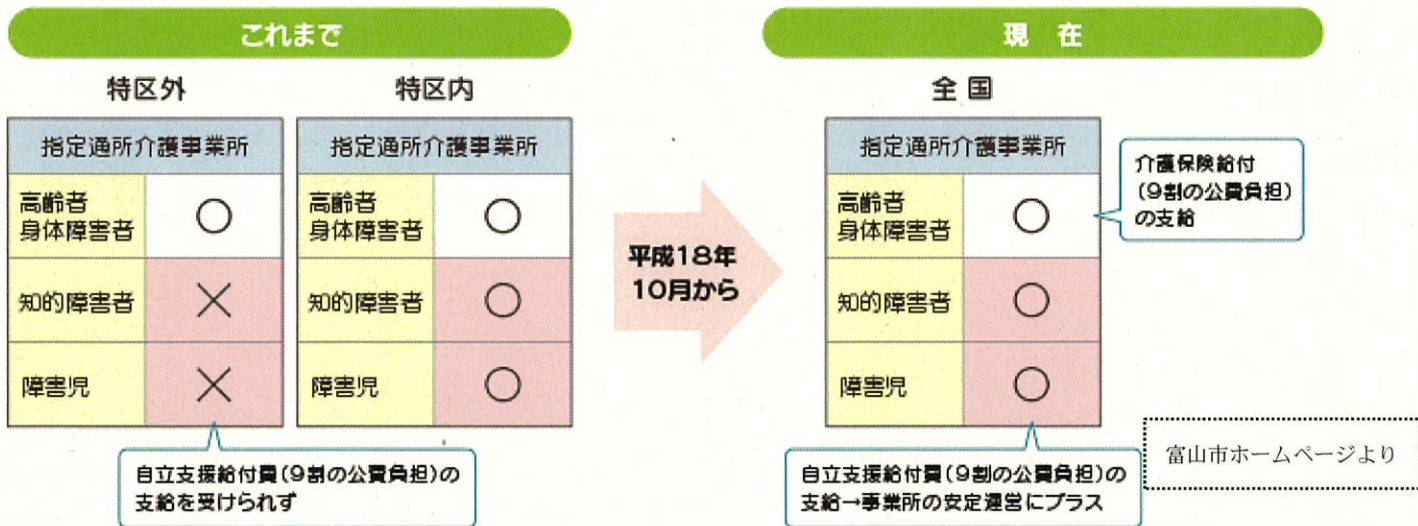
富山型デイサービス《富山県富山市》（視察日7月17日）

〔人口418,149 面積1,241.77km²〕

「富山型デイサービス」とは

利用者	高齢者、障害者、子どもなど利用者の限定なし。誰でも受け入れ。
ケア環境	一般住宅をベースに、利用定員が15人程度。家庭的雰囲気。
地域	住み慣れた身近な住宅地に立地。近所の人に遊びに行く雰囲気

この「富山型デイサービス推進特区」の特例措置は、平成18年10月から全国において実施できるようになりました。



「小規模だからこそ家庭的な雰囲気のなかで、利用者が自然にすごせる。個々の状態に合わせたきめ細かい介護が受けられる。」「お年寄りが子どもを見守ったり、障害者がスタッフの手伝いをするなど当たり前の日々の生活がある」と紹介しているが、デイサービスの一施設『ふるさとのかかり』を訪問したが、それが実行されている。

伊豆市で実施すると？

- 介護事業者の自主性が発揮できるか。
 - 行政が事業者を支援する体制がとれるか。
 - 高齢者、障害者などの願いなどを把握する体制をどうするのか。
 - 障害者の特性に応じたスタッフ体制をどう確立するのか。
- ※ 家庭的雰囲気のある生活が過ごせるという暖かさを感じたが、人がこの事業を成功させるカギを握ると思う。どこから具体化するか？知恵が必要。